



広報

www.jalc.or.jp

第466号

2013年1月10日

造園協

本号の主な内容

新春特別号

新春座談会

「造園界に託す夢」 造園に携わる女性の将来展望

発行／一般社団法人日本造園建設業協会（Japan Landscape Contractors Association） 創刊／昭和49年6月1日 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-17 井門本郷ビル2階 TEL03 (5684) 0011 FAX03 (5684) 0012



国指定特別天然記念物「石徹白の杉」（岐阜県郡上市白鳥町石徹白）

この杉は岐阜県郡上市白鳥町石徹白の白山登山道の登り口、標高1,000mの地点に位置し、樹高25m、目通り14.5m、推定樹齢1800年の杉の巨木である。幹上部からは太い枝が何本も真っ直ぐに上に向かい、大半の枝が伸びたところで枯れている。枯れた箇所や腐朽箇所からは、ヤマウルシやコシアブラなど色々な草木が着生しており、あるいは昆虫や鳥類の営巣場所にもなっていて、様相は一つの森のようである。（岐阜県支部）

謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 藤巻 司郎

年頭に当たって

2013

造園建設業の明るい未来のために



新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、新たな希望を胸に輝かしい新春を迎えられたことと思います。

環境の世紀に入ってから10余年が経ち、社会全体の環境保全意識が急速に高まってきました。身近な環境から生物多様性対策、地球温暖化対策など地球規模の環境問題への関心に加えて、東日本大震災を契機にエネルギー問題が顕在化、大きな関心事となっています。また本格的な少子・高齢化社会を迎え、この日本の将来のあり方をめぐる議論が、各方面で交わされるようになりました。これまで築き上げてきた豊かな日本を如何に持続化し、国際社会の発展に寄与していくか、が大きな課題となっているように思います。

日本の将来像を描き出す様々な議論の過程で、自然と共生し、美しい景観の日本を将来の子供達に引継いでいくために、如何に失われた緑を再生し、新たな緑を創出していくのか、についても十分な議論がなされることを期待しております。

私たち造園建設業界は、低迷が続く経済状況や公共投資の著しい減少に伴い、非常に厳しい経営環境下におかれています。国政においては新たな政治体制がスタートしました。早急に緊急経済対策が実施され、一日も早い景気回復を願って止みません。

が、このような時こそ造園建設業の明るい未来を目指して日々活動を行っていくことが重要です。常に時代のニーズを的確に捉え、社会の変化に即応できる態勢を整え、我々は様々な機会を捉え、植物をはじめ多くの自然素材を巧みに組み合わせた景観を創造することこそが、身近な環境はもとより生物多様性対策や地球温暖化対策など地球環境にまで関わる活動領域と規模を造園建設業が大きく広げていくと信じています。

このような中、当協会は昨年4月1日に一般社団法人へ移行し、新たな一歩を踏み出しました。重要課題である社会保険未加入対策をはじめ造園建設業を取りまく諸課題に対応するための体制を整え、造園建設業の発展と会員企業への支援を重視した日造協活動への取り組みを本格化させてきました。

環境保全意識が社会全体に広がるこの時代において、生き物を扱う唯一の建設業である造園建設業として、「造園力」を発揮できる活動領域を拡げるとともに造園業界で働く人がやりがいを感じ、誇りを持てる明るい未来の魅力ある環境づくりのために、この一年、皆様とともに日造協活動に取り組んでいきたいと考えています。本年も皆様のご指導、ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

「造園界に託す夢」

新春座談会

広報日造協の新年号は、昨年日造協40周年に当たり関係団体から「寄稿をいただくなど、これまでさまざまな特集を行ってきた。こうした中、新たな年に向けた座談会も数多く開催し、近年は2009年に「造園建設業の活性化

座談会開催に当たって

2011年に「次代の造園の夢を語る」と題して、若手経営者の取り組みと日

て、女性からご意見をいただきました。今回、次代を担う造園人の第3弾として、審査委員も務める村岡政

子(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会関東支部長に進行をお願いし、5

村岡 今日は大役を仰せつかっておりますが、気兼ねなく、いろいろなお話を伺えればと思っています。

会社にはいられたのは、居心地が良かったからです。すぐに結婚し、子ども2人

自他紹介を兼ねて原田さんから、現在どんなお仕事をしているか、業界に入っ

造園を選んだ理由

それでは、最初に私の自己紹介から簡単にさせていただきます。現在、造園の企画、計画、設計、緑のまちづくりなどを業務としている会社が集まっている一般社団法人ランドスケープ

原田 九州の内山緑地建設から来ました原田と申しま

た。卒業後は自然保護ボランティアと海外に強い関心があったので、カナダに



村岡 政子氏



この業界に入ったきっかけは、茨城の山と海の中で育ち、その中で自然の素晴

桑園 東京の渋谷区恵比寿にある東光園緑化から参りました桑園と申します。

座談会出席者

進行：村岡 政子氏

(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
理事・関東支部長、(株)ライフ計画事務所取締役

高橋 啓子氏

むつみ造園土木(株) 緑地管理担当 (秋田)

井上 優美氏

山梅造園土木(株) 営業部課長 (群馬)

桑園 亜希子氏

東光園緑化(株) 事業部管理課 (東京)

木山 沙季氏

(株)京阪神グリーン 工務部 (大阪)

原田 麻美氏

内山緑地建設(株) 設計営業部 (福岡)

オブザーバー

藤巻 司郎 (一社)日本造園建設業協会会長
高梨 雅明 (一社)日本造園建設業協会常任顧問
鈴木 誠司 (一社)日本造園建設業協会広報活動部会長

福岡に来られることがありましたら、ぜひ白野江植物公園へお越しください。

自然に囲まれて育ち植物が好きだったので、その後大学の農学部に進みまし

た。卒業後は自然保護ボランティアと海外に強い関心があったので、カナダに

高橋 私は桑園さんのようなドラマティックな経歴はなく平凡ですが、青森で生

以前は、天王事業所で、公共や民間の緑地管理を主に担当しており、出産・育児休暇を機に、北秋田市の

最近、結婚をして、仕事



新春座談会のようす (日造協会議室)

が、こちらでも同様に緑地管理業務に携わっています。井上 山梅造園土木で営業をさせていただいている井上と申します。今日は、北は秋田、南は福岡から来られています。群馬はその真ん中。会社のある太田市は鶴の形をたくちばしの部分に当たる交通の便の良い所で、栃木、茨城、埼玉へは車でちよつと、東京へも80km、車で2時間と、関東近県で仕事をさせていただいています。

私は人生の半分を今の会社に埋めています。そもそも商業出身で、この業界に入ったのも特別植物や木が好きということでもありませんでした。「近くにいい会社があるよ」という噂を聞きつけ入社し、当初は経理をやっていました。

その後、総務、工事を担当し、弊社の「東京ドーム9個分・43haの樹木生産をしている農場」も担当、一通りやって、はじめてどういう会社かを理解しました。現在は、皆さんと同じように指定管理の仕事をさせていただいたり、会社の広報宣伝、営業、採用、人事や社長の秘書的なことをしたり、『何でも屋』です。

いろいろなことを知らないとい何でも屋はできず、毎日楽しく仕事をしています。

女性の柔軟性を活かす



原田 麻美氏

皆さんのようにせっかく造園や専門のことを学んで会社に入り、好きな人ができて、結婚したいと思っただけに、仕事を続けられないのは、本人にも会社にとっても不幸だと思います。結婚しても仕事ができ、周囲の人たちとより良い社会をつつていくのは私たち自身だと思っています。

ただ、実際にそうはいっても、出社前にご飯やお弁当を作り、帰宅後に夕飯の支度をしたりと、朝夕は特に大変です。そして仕事も100%となると、だんだん自分に余裕がなくなってきました。ゆとりがないと部下のことをきちんと見てあげられなくなるので、そのやりくりがちょっと大変かなと思っています。

村岡 関西に女性の造園関係者によるネットワークなどはありますか。

木山 ないです。同業者の集まりなどでは、女性の方もちらほらいらっしゃいますが、今日のような話をしたことはありません。

村岡 東京では、指定管理者をされている会社で、特に女性が活躍しているように思いますが、原田さんのところではいかがですか。

原田 弊社では、指定管理者の現場には極力女性を配置するようにしているので、おっしゃる通り、女性が前面に出る場は増えていると思います。ただ、結婚して退社するケースもゼロではありません。

しかし、会社としてもそんなことを言っていられないということもあるでしょうから、簡単なことではないと思います。女性を採用しても、その大半が辞めていくということになると、悪循環になってしまいます。

原田 家庭の状況が変化した後、それ以前と同じ100%を要求されると、自分1人ではやりきれないということになるのではないのでしょうか。

やはり周囲の人、会社の理解や協力がないと続けられない側面があると思いますし、その辺りが変わらないうと、状況は改善しないと思います。

村岡 イクメン（育メン）などという言葉もできて、東京だと男性でも仕事の場で、「子どものお迎えがあるから今日は帰ります」などと言っても、驚かない環境になってきて、通勤前に毎日お父さんが保育園に送っていく姿も珍しくなくなっています。

九州や東北などではいかがですか。まだ地域差があったりするんでしょうか。

井上 結婚した相手によると思います。（笑）

村岡 私が子育てしていた頃は考えられませんでした。が、会社も男性も考え方が随分変わったと思います。桑園さんはご結婚されていますか。

桑園 結婚しています。子どもはまだいませんが、子どもができたらしょうということは考えます。

現在、現場代理人として、日中は現場に出て、戻ってきてから書類づくりなどをしていて、帰るのは夜8時、10時になってしまっています。

今、夫だけなので「今日は食事の用意がないから」と言えば、それで済みます（笑）、でも、子どもにそれはできません。

しかし、「子どもの食事があるの」と、書類をつくらずに帰ってしまったら、以前の自分や他の人はできていないのに、一人工としての仕事ができないことになってしまいたい、会社的にどうなのかなあと。自分ではできればやりたいけれど、あとは会社の判断に任せるほかないと思っています。

村岡 私も育児中、施設設計はできませんでした。途中で帰ってしまうわけにはいかないですから、計画の方にシフトしていました。計画なら、電車の中でも家でも考えることはできますから。突然ですが、社長さんとして、藤巻会長いかがですか。



夏休み子ども昆虫採集イベントで、夜のライトトラップを仕掛けて、集まる虫を昆虫博士と一緒に観察。森の夜の姿を見ることが出来る貴重なイベントとなっている（白野江植物公園、2012年8月）

藤巻 指定管理者の話もたくさん出ました。指定管理者であれば、今日はお休みしますとか、育児しますとか、代わることが比較的容

易にできると思います。しかし、これもお話にあったように、チェーンソーや刈払機など、いろいろな資格や経験が必要とする現

場代理人の変更は簡単ではありません。現在の建設業法で、変更も可能になっていますが、手続きは大変で、そう考え

ると長期間にわたる工事には、まだ難しいかもしれないという思いもあります。学校を出て、4、5年経たないと、必要な資格を取

管理業務の増加で活躍の場広がる

つて、これからという時に、結婚、退社となると会社としては厳しいですね。

あまり大きくない当社には、女性が4、5人、子どものいる女性社員が2人います。きつといういろいろ大変なこともあると思います。長く会社にいると、会社の

賀 春		一般社団法人日本造園建設業協会	
会 長		藤 巻 司 郎	
副会長兼業務執行理事		佐々木吉和	
業務執行理事		林 輝 幸	
理 事	理 事	和 田 新 也	卯 之 原 昇
		梅 川 真 澄	望 月 勝 保
		阿 部 宗 広	有 路 信
		磯 部 久 人	宇 坪 啓 造
		枝 吉 茂 種	大 島 嘉 七
		大 八 木 勝 彦	小 川 陽 一
		奥 本 寛	加 勢 充 晴
		鬼 頭 慎 一	木 上 正 貢
		久 保 和 男	小 林 正 典
		酒 井 一 江	坂 上 信 明
		須 磨 佳 津 江	執 行 英 利
		田 澤 重 幸	田 丸 敬 三
		西 岸 芳 雄	廣 澤 清 隆
		星 三 郎	正 本 大
		蓑 茂 寿 太 郎	森 根 清 昭
		涌 井 史 郎	渡 部 佐 界
		北 田 功	安 田 茂 雄
		矢 野 幸 吉	廣 澤 清 隆
		渡 部 佐 界	加 勢 充 晴
		磯 部 久 人	大 島 嘉 七
		坂 上 信 明	正 本 大
		鬼 頭 慎 一	
監 事		総支部長	
監 事		北海道	
監 事		東北	
監 事		関東甲信	
監 事		北陸	
監 事		中部	
監 事		近畿	
監 事		中国	
監 事		四国	

造園Ⅱ憧れる職種No.1に

ことって大切だと思いま
す。毎日、忙しく過す中
で、そういうきっかけがな
いと、勉強する時間をつく
るうとはなかなか思いま
せん。そういう環境に持つて
いくことも必要ですね。
また、女性にとっては、
資格というものの存在は男
性以上なのではないでしょ
うか。産休や育休などで、
スキルが途絶えるのではな
く、続けていこうと思う原
動力にもなるように思いま
す。

村岡 そろそろこんなこと
をしていきたいとか、夢の
お話をしていきたいと思
いますが、木山さんいかが
ですか。
木山 やはり男性の方が多
いので、男性が取り仕切っ
ている業界という感じはし
ます。それが良くないこと
だとは、まったく思いま
せん。ただ、ちよつとだけ、
女性が敬遠しがちな業種
のような気がします。この
業界で自分の周りに、同年
代の女性が少ないからもし
れないので、もっと増え
ていくくれたらいいと思
います。
一方で、この業界でない
人に造園の仕事の話をす
ると、「面白そう」と言わ
れることも多く、よくよ
く話してみると、私が思
う以上に植物や庭が好き
で関心を持つている人
が多いことも、実際に
仕事をしてみてわか
りました。
ですから、造園のこ
とを知らない人たちに、
もっと造園のことを
発信していけたら
いいと思います。

きつと、これまでと違
ったPRをしていったら、
もつと若い人も関心
を持つてくれるのか
と思います。
村岡 現場の経験はいい
ですね。私は施工の現場
を経験できませんでしたが、
皆さんのいろいろな現場
経験をみて、その一つ
一つを宝物だと思つて
大切にしたいと思いま
す。
若い人の話も出まし
たが、採用もされてい
る井上さん、最近の若
い人はどうですか。
井上 面接をしていると、
正直男性より女性の方
がバワフルです。「こ
ういうことがやりたい
」と、はっきりした考
えを持っています。3
年前、5人を一気に
採用した際、当初女
性は1名を考えていま
したが、どうしても女
性にガッツがあつた
ので、3名も採用し
ました。その3名は、
今もバリバリに活躍
中で、面接のときの
勢いは全然衰えず、
「やりたかつたこと
がやれて楽しいです」
と言っています。

もちろん、女性だけ
がいいと言っているの
ではないかと、男性の
素晴らしいところも
たくさんあり、男女
半々の世の中だから、
ちつともたれつそ
ういう面から、ま
だまだ女性が出て
きてもいいのでは
ないかと思いま
す。
私は、これからの
造園企業は、「働く人
たちが楽しんでワ
クワクできるよ
うな仕事にでき
ているか」、「そ
ののための会社
づくりができ
ているか」、では
ないかと思つて
います。
作業着一つと
ても、男性はか
つこ良く着な
せるかもしれませんが、
女性はどう
なつてしまつた
りするので、メ
ンテナンスの
現場などで、
もっとおし
やれな格好で
仕事をしてい
ると、周囲の
人の見る目
も違つてくる
と思います。
まだ弊社は、
男女同じ作
業着ですが、
「私たち、こ
うやりたいん
です」と、ア
イデアを出
してバリバリ
仕事をしてい
くと、「先輩
みたいにな
りたい」と、
これからの若い人も
もつと憧れる存在
になるように思
います。



桑園 亜希子氏

「造園のすごさ」 広く一般の方々に発信しよう

用や森林浴、自然観察な
どで、そういうものにも
つと積極的に携わら
れたらと思
っています。

また、資格の話にも
関係しますが、造園
とは直接関係のない
資格も面白いと思
っています。私は今
年、ベビーマッサー
ジの資格を取りまし
た。これは、グリー
ンサム倶楽部が提供
している建物で行
う催事を企画し
ていた際に、育休
中にベビーマッサー
ジをやっているサ
ークルに行つたら、
とても楽しかつた
という話をし、社
長にその資格取得
を促されたから
です。

私は催事を行う際、
ベビーマッサージの
先生を招くとば
かり思つていま
すが、「指定管理
者の施設でも、
ベビーマッサージ
をしたら、お母
さん方の集客に
つながるでしょ
う」と言われ
ました。

本
当にその通りで、
男性と競合する
のではなく、む
しろ、女性だ
から、お母さん
だからといった
視点を活かせ
たらと思つて
います。特に、
公園などは、
お母さん目線
が求められる
と思いま
す。そして、
同じように
これからお
年寄り目線
ももつと大
切になつて
くると思
います。

私自身、母親にな
つて随分と公園
の見方が変わ
りました。高
木に殺虫剤を
散布する際
に、今まで以
上に風の影
響などで、遠
くの方に
ある遊具に
いくことは
ないかと
気が遣つ
たり、それ
まであまり
気にしな
かつたこ
とが、見え
てくるよ
うにもな
りました。
同じもの
を見ても
捉え方が
違いま
す。で
すから、
一人前
ではない
分、そ
うい
うもの
を活か
せたら
いいと思
つていま
す。



ケヤキ剪定作業のようす。シンボルツリーとして自然樹形を維持しながら、一回り小さく剪定している。

先週は群馬県におり、突
然の代休で、友達も誘
えず、一人で尾瀬に行
つてきまし
た。九州に熊はい
ないの
で、す
つかりクマよけの鈴
なども忘
れてい
て、森のくま
さ
んを歌
いなが
ら手
を叩
いて
散策
しま
した
（笑）
。と
ても
良
かつ
た
で
す。

桑園 将来のことを
じっくり考えることは、
現状で精一杯なのであ
まりありません。でも、
もつといろいろなこ
とを吸収したいと思
います。私は造園に
ついては知らないこ
とだらけなので、た
だ庭を見るだけでは
造園の伝統や技術、
庭づくりのノウハウ
は自分で気が付くこ
とすらできません。
教えて貰つたり、勉
強したりして

桑園 今、家庭菜園
をやりたいのですが、
賃貸マンションで
暮らしたので、ベ
ランダでちよつと
した野菜を作つ
て楽しんでいます。
でも、収穫時期を
逃してブロッコ
リーの花を咲かせ
たり、レタスに付
いたアブラムシを
見て食べる気が
なくなつたりと、
あまり収穫の喜
びは味わって
いません。畑を
借りて野菜を作
つてみたいの
ですが、今は無
理そう
です。

原田 山が好きなので
登山をしたり、海
も好きなのでダイ
ビングもします。
そのほか、島も
好きなので、い
ろんな島に行
つたりします。

村岡 いいお話を
有難うございま
した。高橋さん
のお話のよう
に造園に直接
関係しない資格、
趣味なども含
めて、これか
らの夢とか、
やつてみたい
ことはどう
ですか。

一般的にも同じで、興
味のない人は身近な
ものでありながら「
造園のすごさ」は
知る機会がないと思
います。上の人から
学んだことを一般
の方々にも知って
いただくような活
動もできれ
ばと思つていま
す。

また、東京は、人
の周りに緑が少な
いにもかかわら
ず、その身近な
緑さえ、落ち葉
が迷惑、枝が邪
魔だから伐つて
くれという声も
多く聞かれます。
最近その様な
声が増えてい
ると思つていま
す。

「きれいに剪定して
欲しい」というの
ではなく、「この
高さで切つて
欲しい」な

どという要望が多く、職人の技術云々の話ではありません。こういう仕事ばかりになってしまふのでは技術も活かせないですし、私達が関わる意味がないのではと思つてしまいます。

社会全体・住民の方々の考え方の問題なので、技術以前の課題として自然との関わり方について、何か発信してこのような状況を少しでも変えていかなければならないと思つています。今現状では、何も発信できていませんが、広く外へ発信をしていきたいなと思います。

東京だけなのかもしれませんが、美しい樹形は問題外で、落ち葉が迷惑・虫が嫌いということのみで、樹木が樹形も樹勢も関係なく切られている現状は、深刻な問題だと思ひます。

原田 平成23年に樹木医の研修で全国のいろいろな人と話しましたが、全国的にそういう傾向があるようで、皆さん悩んでいらつしゃいました。

私自身、公園に隣接したお宅から、公園の樹木の葉が落ちてくるので切つて欲しいと、面と向かつて言われたこともあり、切なくなりました。

井上 群馬も同じです。役所の担当の方によつて、随分と対応も違います。樹木



井上 優美氏

の必要性を理解されている方だと、市民の方のクレームについても話し合いなどをされたりしますが、まったく関心のない方だと、すぐに切つてくれとお電話をいただきますし、いつの間にかぶつ切りになった木々も見受けます。

担当の方々に理解を求めていくことも欠かせないことですが、一人一人に言つても改善は難しく、それだけではみどりは守れないので、市町村、県、国などの管理者(トップ)に対して、理解を求めていく。1社だけでは難しいので、造園の団体として、そういう活動を通じていくことが大切だと思ひます。

また、難しいことではあります。そういう意見、提案は、行政に対してだけでなく、一般の人にも見える形で発信していけたらいいなと思ひます。

桑園 みどりに理解が得られないことは、悲しいことだと思ひます。そういう社会の風潮を変えて、自然との共存を提案することも、

仕事は楽しくするもの

いかがですか。

原田 今日、福岡空港から来ました。空港内にバックや洋服のお店があったのですが、店員の方がビシッとした男性ばかりで、少しだけ入りづらさを感じました。

村岡 みどりが好きな人も増えていますが、その反面、みどりが嫌いな人も増えたというか、両極端になってきているような気がします。すぐに伐採して欲しいという人、一方、剪定すら許さないという人もいます。そういう極端な方々に理解を得るのは大変ですが、市民にきちんとした情報を伝える、理解して貰う活動は大切だと思ひます。大阪ではどうですか。

木山 大阪はお金にうるさ いですね(笑)。「1万円までやってね」とか、「2万円の範囲で」とか、何をどのようにやるという話より、まず金額です。でも、消費税を振り込んでくれず、何度電話をしても、結局は逃げられてしまつたりしています。(笑)

村岡 大阪らしいというのでしょか。いろいろ大変ですね。

なかなか夢の話にたどり着きませんが、原田さんは

いると(笑)、緑が身近にあるという感覚はなく、

街路樹に生息する虫、公園で咲く花や飛んでくる鳥のことを気に掛けることもありません。

そういう都市環境で育つた子どもたちは自然に対してどのような感覚を持つのか

かなと思ひます。

環境教育なども盛んに行われていますが、もしも大人がお膳立てをしたカリキュラムだった場合、なかなか身に染みて実感することは難しいと思ひます。

都会が悪い訳でも、田舎が良いという訳でもありません。

せんが、もつと子どもたちがみどりに触れ、そこで楽しいなと思える環境があつた方が私はいいと思つています。そういう体験があれば、花や緑、自然が嫌いにはならないのではないと思ひます。

都会で生きものの世界のこと、みどりのことを楽しく伝えていければ、造園業界や自然環境について、一般の方からもっと理解が得られるのではないでしうか。

そのためには、いろいろな実体験を積み重ねなければならぬと思ひます。形だけ取り繕つてもダメで、人として自分を磨いていくことも不可欠です。そして何より、やっている本人が楽しくないと、楽しさは伝わりません。

そのような人としての魅力づくりは、会社や仕事の場面に期待するだけではなく、自分で身に着けていかなければならないと思ひます。

村岡 ひと昔前までは、公園の管理事務所という堅物そうなおじさんが座つていたりしましたが、指定管理者となった造園企業なども増え、窓口は女性の方がいらつしやるだけで、いい

公園なんだろうと思つてしまつこともあります(笑)。女性が活躍する場面がますます増えていきそうですが、木山さんはいかがですか。

木山 女性が活躍する場面が増えるのは嬉しいことです。同じように造園が活躍する場も増えていつて欲しいと思ひます。造園は、環境を扱う業種なので、環境が重視される中、そういう取り組みをもつと進めていけたらと思つています。弊社でも、ここ数年は特に壁面緑化に力を入れております。関東の方が進んでいると思ひますが、大阪でも徐々に増えてきており、魅力的な分野だと思ひます。

環境をもつと上手にアピールすれば、興味を持ってくれる方も増えると思ひます。壁面緑化についても、ただ緑の植物があるというのではなく、カラーリーフを使い、おしゃれなデザインで施工すると、やつてみたいと思ひ方が増えるのではないでしうか。

今までと同じことをやっていたのでは、変化の激しい時代についていけません。そういう変化に対応できる組織が、これからの時代を生き残っていくのでしょうし、男性も女性も関係なく、人として成長できる会社であれば、どの部署で



日造協「造園フェスティバル2012」のスタッフで記念撮影(群馬県立金山総合公園)

あっても、どんな仕事をしてきつと楽しく仕事ができるはずで、そこで力を発揮できれば、当然会社も良くなっていくと思います。そういう組織づくりが今考えている「夢」ですね。その土台作りをしているところ、社内だけでなく、外部の方々へのアピールもしていかなければならないと思っています。

村岡 今までお話を聞いていて、柔軟さとか元気があ

るのはもちろんですが、皆さん仕事を楽しくしているのかもしれないと思います。

男性もきつと仕事を楽しんでるのかもかもしれませんが、大変そうな顔をしている人が多いような気がします(笑)。

周囲に楽しさが伝わってくることもとても大切なことだと思います。

高橋 先ほど、男性店員さんのお話もありましたが、

逆に私が今日乗った飛行機のアテンダントは、女性だけではなく男性もいらして、若くて爽やかで、こういうのもいいなって思いました(笑)。

最近、保育士さん看護師さんも男性が増え、今まで女性が多く見られた職場に男性の姿があることは、私はよい傾向だと思います。男性・女性の枠を超えて

幅広いニーズへの対応に繋がると思うのです。発想や考え方について私のイメージですと、男性は遊び心や突飛な発想に長けていて、女性は細かいところに気づき、より現実的な気がします。お互いに不足な点を補い、得意な面を活かせれば新たな可能性が生れるのではないのでしょうか。

それと夢の話の続きにもなりますが最近読んだ本に、みどり好きは伝染するという話がありました。公園で寄せ植えをつくったり、公園で拾ったマツぼっくりなどを使ったクラフトをお家に持ち帰って貰うと、そのご家族だけでなく、ご近所や知り合いの方に広がっていくこともありま

す。それに親しみかけになり、みどり好きが伝染すればいいと思っています。先ほどの街路樹の話にも繋がりますが、枝葉を夏場に強剪定された例が近所にあります。関心がないのか、こういうもんだとあきらめているのか、このような状態に違和感を感じてもっとみどりを大切にしたいという人が増えて一緒に何か変えられればいいなと思いま

す。それとみどり好きを育むためには、こういう風にしたい方がいと押し付けるのではなく、自分がやっているガーデニングや、自分が楽しんでやっていることを、「私もやってみたい」と広がっていくのが一番いいと思っています。そういう拠点づくりをしていきたいと思っています。

人を大切にして働ける環境を

人を大切にして働ける環境を

村岡 もつといろいろとお話をお聞きしたいところですが、最後に後輩や造園界へのメッセージをいただけますか。

原田 現実的に難しい部分もたくさんあると思いますが、私は造園を面白い仕事だと思っています。

直接命を扱う仕事なので、そういう気持ちを大事にしていけば、考え方ひとつで何とかなると思つています。

高橋 今まで結婚して退職

が分らないこともありましたが、そういうものを学び、積み重ねていくことで、その積み重ね・経験が大きな強みになると思っています。また、この業界で仕事をしてみて、女性が少ないから逆に大切にされていると感じます。

ただ、自分は何を大事にして何をやりたいのかをつきつめていけば、道は開けると思っています。目的意識を持ってこれからも頑張っていきたいと思っています。井上 最近、今春に入社す



木山 沙季氏

そういう仲間と一緒に頑張っていけたらと思つています。木山 今日こうして皆さんと知り合えたことが何より嬉しいです。

皆さん、造園の仕事が好きたとおっしゃられ、積極的に仕事や自分磨きをされており、夢を語る立場の筆の自分が、逆に励まされました。有難うございます。私も自分にできる仕事をもっと増やしていきたい、精一杯頑張っていきたいと思っています。

村岡 最後にせっかくですので、今までのお話の率直な感想など、高梨さんいかがですか。

高梨 今までのつくる造園から、つくったものを活かす造園に変わってきた中で、今までは顔の見えない不特定多数を対象としてきたと言えますが、ストックの時代、指定管理者などは特に、顔の見える特定の人あるいはボランティアグループや自然保護団体の方々などと一緒に仕事をしていく状況になってきました。

今回の座談会からは、こうした造園の仕事内容の変わりが、私も励まされ、夢を

化も垣間見られ、女性の柔らかなさや母親としての視点、あるいはきめ細やかな心遣い、さらに、仕事も生活をエンjoyするという姿勢が、女性の持つ素晴らしの一つであり、このような発想がこれからの時代に必要であることを感じさせられました。

今後は社会全体が、女性だけでなく男性も含め、今まで以上に人を大切にして働ける環境づくりをしていかなければなりません。

新しく業界に入ってきた人、若い人を励ますことはとても大切なことであり、日造協では、地域リーダーとして、若手経営者の支援を始めたところですが、これからはさらに広く若い方々を応援できるような取り組みも考えていかなければならないと思つています。

村岡 今日は拙い進行でしたが、私も励まされ、夢を

残念です。座談会から汲み取れる今後の造園界に欠かせないものとしては、「使用者・利

「造園界の将来を自分たちで切り拓いていこう」という進行役の村岡氏の一言が、今回の新春座談会の活気ある状況を表していると思います。

実際の座談会は本紙に掲載を一部割愛しなければならぬほどの充実した内容であり、会員の皆様に全てをお伝えできないのが大変

座談会を終えて

経済状況から来る閉塞感が強い時代ではありますが、座談会を通じ、「想いは手法の上流にあり」とい

経済状況から来る閉塞感が強い時代ではありますが、座談会を通じ、「想いは手法の上流にあり」とい

経済状況から来る閉塞感が強い時代ではありますが、座談会を通じ、「想いは手法の上流にあり」とい



壁面緑化施工事例